

## 薬剤師の仕事

薬剤師 大島 恵

昨年の11月(市立病院だより第114号 上記ホームページ参照)に薬局の仕事を紹介した記事がありますので、今回は私が質問を受けたことがあるみなさんからの疑問についてお話ししたいと思います。

### 1. 薬剤師ってどんな人

薬剤師は4年制の大学の薬学部または薬科大学を卒業後、薬剤師国家試験に合格した者で、一般には処方箋により薬を調剤する人と理解されていますが、医学の高度化に伴い薬学的側面から処方提案や処方監査、服薬指導を行うこともしています。

(法律の改正があり、2006年からは薬学部、薬科大学は6年制に変更になりました。)

### 2. 院外処方箋と院内処方箋

(1階の薬局で薬を調剤してもらえないのはなぜ?)

厚生労働省の医薬分業の方針に従って当院でも外来患者さんのお薬は院外処方とすることになりました(平成20年4月より)。医薬分業とは、医師と薬剤師の二人の専門家により、医薬品の使用を二重にチェックし、患者さんに処方された薬の効果や安全性を一層高めようとする制度です。

これにより病院の薬剤師は入院されている方のお薬にかかわる時間が増え

ました。また、外来の方には「かかりつけ薬局」を持っていただくことを目指しています。

外来患者さんにお薬が必要な場合、通常院外処方箋が発行されます。これは保険薬局で調剤するためのものなので院内にある薬局では取り扱えません。

1階の薬局でお薬を受け取られているのは(院内処方箋) 保険薬局で取り扱えない特別なお薬や検査の前に飲むお薬、血糖値を測るための試験紙などが必要な方となっています。夜間や休日の救急患者さんのお薬も院内で調剤しています。

#### かかりつけ薬局のメリットとは

薬歴の作成

「薬歴(薬の服用の記録)」を作ってもらえます。

ジェネリック薬品(値段の安い後発医薬品)に変更してもらえます。

薬の重複投与や相互作用による副作用などの健康被害を未然に防止することができます。

病院の医師の発行する処方内容を知ることができます。

服薬指導をいつでも受けられます。

一般薬の副作用情報なども含めて、健康に関する情報提供が受けられます。

### 3. いままで外来のお薬を調剤していた人は何をしていますか?

各病棟に1名ずつ朝から勤務しています(病棟での仕事は病院だより第114号もご参照ください)。

服薬指導などの薬剤管理業務を主としながら入院患者さんに安全に薬をお渡しするため、新たにホスピタルカセッター（与薬車）に1週間分のお薬を1回服用する分毎にわけ作業をはじめました（1階調剤室および病棟で作業しています）。



写真:与薬車  
一つの引き出しが患者さん一人分となっており、一日の服用時間毎に1週間分が仕切られて入っています。

また、錠剤を飲み込めない方やチューブから投薬している場合、薬をお湯に溶かして投与する方法（簡易懸濁法）があり、看護師が行うこの作業を容易にするため薬を包装からとりだして一回分をひとまとめにすることも薬剤師が行っています。



写真左:簡易懸濁法に使う用具一式  
写真右:内服薬を1回に飲む分にまとめた小袋

そのほかには新生児の栄養補給の注射薬を病棟で調製しています。

また、院内で薬が安全に使われるようDI業務（医薬品情報管理業務）の充実に取り組んでいます。医薬品に関する情報は日々新しくなっております。医師・看護師や患者さんからの薬に関する質問・問い合わせに迅速かつ的確に対応し、情報を提供できるように薬に関する情報を絶えず収集し、管理・提供しています。

このように病院薬剤師の仕事は外来調剤中心の仕事から入院患者さん中心に変わってきました。

また、いままで以上にチーム医療にかかわれるような人材育成のために薬学部も6年制になりました。

来年度からは薬学部の5年生が病院や保険薬局で実務の実習（各2.5ヶ月間）を行うことになっています。

当院でも学生を受け入れますので窓口やベッドサイドに学生がうかがうことがありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

私たち薬剤師は皆様の健康回復のために医薬品が安全かつ適切に用いられるよう努めていきます。



写真:クリーンベンチで調剤をしている様子  
栄養点滴などをできるだけ清潔な環境で調整しています。